

療法士の新入職員教育現場から —理学療法士編—

療法部には毎年元気な新人療法士が仲間入りします。療法部としての1年間の新入職員教育は、講義に加え、実際のリハビリ場面での現場教育を重視しています。また学生から社会人・医療人としてスムーズなスタートを切れるよう、新人ひとりひとりに経験年数の近い先輩療法士が指導の担当者となり、日々のコミュニケーションや業務への助言などを行うプリセプターシップ制をとっています。

新年度のスタートから3ヶ月が経ち、現在の様子や感想を、今回は理学療法士の2人に聞きました。



Hayato Kondo

理学療法士 近藤 颯人

平成30年入職／勤続1年目

voice!

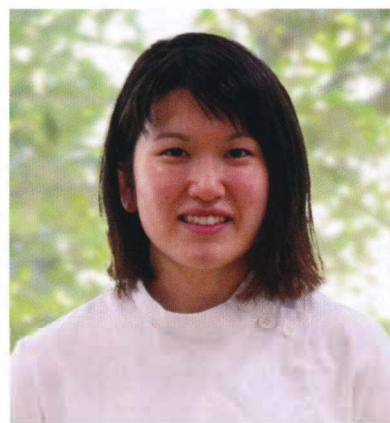
新人

社会人・医療従事者としての基本事項について、手厚く指導していただいています。日常業務の中で困ったときも、的確な助言で方向性を示していただき、自分の考えも活かした行動や、日々のリハビリテーションの提供にも役立っています。これからも経験が豊富で知識・技術を兼ね備えた先輩方に追いつけるよう日々精進していきたいと思います。

voice!

先輩

新人療法士の指導を担当することで、同じ患者さんについて話す機会が増えるため、自然とコミュニケーションが取れるようになってきます。また、いろいろな面で柔軟な発想に良い刺激をもらっています。これからもお互いに切磋琢磨しながら、患者さんにより良いリハビリテーションを提供していきたいと思っています。



Mai Nakashima

理学療法士 中島 真性

平成28年入職／勤続3年目



脚に装具をつけて、歩行練習を行う場合のアドバイスを受けています。どのような状態であれば、どの装具を使うとよいのか、細かい設定方法やチェックする視点など、少しでも歩行しやすくなるためのポイントを、日々のリハビリテーションに活かしています。

療法士の新入職員教育現場から —作業療法士編—

平成30年度は、3名の作業療法士が新入職員として入職しました。入職より約半年が経過し、先輩作業療法士と共に日々の業務にあたっており、徐々に責任ある業務を担う機会が増えています。教育現場から、先輩と新入職員の二人に話を聞きました。



Yasunobu Matsumura
作業療法士 松村 安展
平成30年入職／勤続1年目

voice!

新人 目

以前はホテル関連の業種に従事しておりました。社会人経験はあるものの業種が異なるので困惑することもありましたが、経験豊富な先輩より手厚くアドバイスをいただき、日々懸命に業務に取り組んでいるところです。患者さんを担当させていただいているので、質の高い作業療法を提供できるよう努めます。

voice!

先輩 目

私自身の子育ての経験や、教育研修の一環での訪問看護ステーション勤務、訪問リハビリテーションの経験が、新入職員への教育で役立っています。

書類の書き方や接遇といった基本的な業務に加えて、様々な視点からの質問など、何事にも真剣に取り組んでいる姿勢から、自らの知識や行動を見直す機会となっています。これからも、自然とコミュニケーションを取りやすく、いつでも気兼ねなく報告・連絡・相談をしてもらえる存在になれるよう頑張ります。



Tomomi Okamoto
作業療法士 岡元 智美
平成24年入職／勤続7年目

check



生活の中で手を使うことは多く、食事や排泄動作などを再獲得する場合に手のリハビリテーションは重要となります。どのような方法であれば効果的に運動を促せるか、具体的な方法についての質問も増え、先輩作業療法士も一緒に頭を悩ますこともあります。

短い時間でも最大限の効果を発揮できるよう、日頃からお互いのコミュニケーションを大切にしています。

そろそろ年度の終わりに近づき、新入職員も担当する患者さんが増え、より現場での教育が重要となります。今回は、言語聴覚士の先輩と、新入職員に話をききました。



Yukie Kita

言語聴覚士 北 幸恵

平成30年入職／勤続1年目

voice!

新人

日々、現場で働く上での疑問に対し、助言を頂きながら、業務に取り組んでいます。専門分野だけでなく、一人の社会人として、礼節や心構えなど、広い視点からアドバイスをもらっていると感じています。報告・連絡・相談を繰り返し、より良いリハビリテーションを提供できるように頑張ります。

voice!

先輩

新人教育をすることで、自身のリハビリを振り返る良い機会となっています。自分が後輩だった頃を思い出し、先輩たちから学んだことを、次の世代の後輩たちに還元できるようにし、患者さんの改善につなげられるよう努力しています。



Manami Maruyama

言語聴覚士 丸山 真菜美

平成22年入職／勤続9年目

check



コミュニケーションや高次脳機能は、脳の働きのなかでも複雑で、的確な評価が欠かせません。そのため、多くの検査を扱いますが、検査は点数を出して終わりではなく、どのように分析するかが大切で、知識や経験の積み重ねがないと、とても難しい作業です。アドバイスをもらい、時には意見交換をしながら分析を進める、リハビリテーションの方法を考える作業は、言語聴覚士にとって貴重な教育の場です。